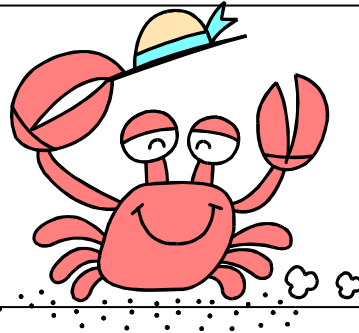


産地直送便



発行(農)山形おきたま
産直センター
山形県南陽市漆山 1068
TEL 0238 (47) 7338
<http://www.okitama.net/>
2011.7.1 発行
責任者 星 隆之

7月コラム 「田んぼと除草機と私」

こんにちは。原稿を書いているこの時期(6月末) 置賜地方の多くの農家は「サクランボー色」という感じになっています。しかし、田んぼ仕事をこよなく愛する私はサクランボー畑には目もくれず、田んぼの除草と草刈りに追われる日々を過ごしています。そこで今回は、お米の有機栽培と雑草についてのお話を少々書いてみたいと思います。

みなさまもご存知の通り、有機栽培では除草剤を使いません(もちろん殺虫剤も殺菌剤も使いません)

除草剤を使わなければヒエ・コナギなどの強害雑草が繁茂してきますので、除草剤に代わる「何か有効な手立て」を講じなければ田んぼは雑草だらけになってしまいます。そして雑草を抑える「何か有効な手立て」については全国的にも答えを持っている人は少ないようで、私たちもこれまでさまざまな試行錯誤を繰り返しながら今日まで至っています。現在私たちが考える一番いい手立ては、生きもの等の力を利用して「物理的に雑草が生えにくい田んぼ」を作り出すことなのですが、これはまだ研究途上でもあり、残念ながらまだ成功事例はあまり多くありません。ということで、現状では除草機を活用した除草を広い面積で実施しています。



現在私が愛用している除草機は「動力で土を攪拌するタイプ」のもの(写真参照)で、これを使えば回転部分に生えている雑草はけっこうきれいに処理することができます(稲株付近の10cm幅程度は未処理)。これを田んぼの状態に合わせて7月中旬まで2~4回程度作業するようにしています。作業後には抜けた雑草が浮いてきて見るには気分がいい(写真参照)のですが、何しろ暑い中での重労働(10a当たり40分程度)ですから肉体的にはけっこうシンドイものがあります。今後この重労働を少しでも軽減するために「作業回数を減らすための工夫」と「草の生えにくい田んぼ

を増やすための工夫」を真剣に考えていなくては、と思っています。

最後に。当面この除草機とのお付き合いは続きそうですが、いつか除草機に「昔はホントに苦勞したよなあ。もうゆっくり休んでいいよ。」と笑って語りかける日が来ることを夢見て頑張りたいですね。以上、特別コラム「田んぼと除草機と私」でした。

寄稿 目黒 祥一

田んぼの生きもの調査ブログ、ほぼ毎日更新しています。ぜひご覧ください!!

お米は生鮮食品です ~夏場の保管管理にご注意を~

お米を米びつにあける時は、きれいに掃除をしてからお米を入れて下さい。
隅にたまった米糠は、カビや虫発生の原因となる事があります。
保管場所は、風通しの良い湿気の少ない所、直射日光は避けて下さい。
可能であれば、密閉できる容器にいれて冷蔵庫に保管する事をおすすめします。
美味しくいただくには夏場の保管管理が重要です。
早めに食べきりましょう。虫よけ対策に「鷹の爪」をご利用下さい。



~ おきたまの文月 ~

お米

有機栽培では 穂ができる（幼穂形成期）大切な時期です。
特別栽培では・・・農薬散布が普通栽培の半分以下に制限されるため、田んぼの周囲の草刈りなどを行います。害虫が少なくなる環境をつくります。

果樹・・・りんご、西洋梨は、果実が肥大する時期で支柱を立て枝が折れるのを防ぎます。梅雨が明ける前に除草や敷きワラを行い、土地の水分を保ちます。

野菜・・・7月後半にはスイカ、かぼちゃの収穫が始まります。



FAX専用連絡用紙

山形おきたま産直センター行き
~産直米変更連絡用紙~

FAX0238-47-7318

お届け日の10日前までにご連絡下さい。

コードNO (納品請求書の左上コードNO 5桁の数字)

お名前 様 FAX送信日 月 日

電話番号 - -

お休み連絡 月 日お届け分(のみ・から~)

変更連絡 月 日お届け分(のみ・から~)
変更の内容

新婦人のお客様は各支部ご担当者様にご連絡下さい。